

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（ 津工業高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		『質実剛健 ～燃やせ青春 はぐくめ友情 はばたけ未来へ！～』 「志」と「技」と「心」を育み、生徒の夢の実現に貢献する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○明確な目的意識を持ち、進路実現に向かって努力する。 ○基礎学力、思考力、判断力、コミュニケーション能力が身についている。 ○心身ともにたくましく、心豊かで社会に貢献できる。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像や育みたい生徒像の実現に向け、情報共有と意思疎通を図りながら、互いに協力して取り組む。 ○仕事にやりがいを感じ、生徒の成長を自らの喜びとするとともに自らも成長しようとする。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 自己実現への支援(授業、進路、資格取得、部活動) <保護者> 子どもたちの充実した高校生活(安全・安心、学習活動、部活動、進路実現、) <企業・大学> 実践力を高める教育(知識・技能、コミュニケーション能力、規範意識、社会的マナー) <地域> 学校の施設と教育力の提供(協働、参画、防災拠点)	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 充実した高校生活(安全・安心、学習活動、部活動、進路実現)と情報の提供 <中学校> 工業高校としての役割(連携による学習機関) <企業・大学> 社会人基礎力(社会的マナー、規範意識、コミュニケーション能力)と学力、専門技術(知識・技能、学習意欲)の習得 <地域> 学校施設と教育力の提供(協働・参画、避難・防災拠点)	<家庭> 学校教育に対する理解と協力(生徒の健康管理、教育活動への協働・参画) <中学校> 教育活動の理解・参画、連携(基本的生活習慣の確立、学力の向上、工業高校への興味・関心) <企業・大学> 継続・発展的な雇用、学校教育への参画と支援(外部教育力、学校評価、インターンシップ受入等) 教育活動への参画と支援(単位修得、専門教育の公開、専門技術の提供) <地域> 教育活動の理解・支援(地域教育力、地域文化の指導・提供、学校評価)
(3) 前年度の学校関係者評価等	・生徒のために親身になり、丁寧な指導を行っている。 ・物事を行うにあたって組み立て(段取り)が出来なくなっている若者が増えつつあるなか、津工の生徒はよく修練されている。 ・生徒達が目的意識をより明確に持てるよう、インターンシップの有効的な活用を検討してほしい。また、きめ細かな指導の継続により就職への意識を高め、地元企業の期待と要望に応えていてもらいたい。 ・施設・設備の充実と校舎のバリアフリー化を推進してもらいたい。	

(4) 現状と課題	教育活動	・多くの生徒が、落ち着いて学習活動や資格取得に取り組んでいます。授業内容をより確実に理解できるようにするため、生徒の学力向上につなげる取り組みの充実が必要です。 ・生徒の多様な進路希望を実現していくためには、職業観や勤労観を育み生徒一人ひとりが将来に対する明確な目的意識を持つことが必要です。また、コミュニケーション力の向上や社会人としてのマナーを確実に身につけておくことが重要です。 ・お互いに認め合い、思いやりを持って過ごすことができる力の育成が大切です。
	学校運営等	・大きな期待を持って入学してくる生徒の期待に応えられる活気あふれる学校づくりを進めるとともに教職員がやりがいを持って学校運営に取り組めるよう、さらに環境整備に努め、業務体制の充実を図る必要があります。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・明確な目的意識を持ち、進路実現に向かって努力する生徒を育成するため、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を進め、基礎学力の向上・定着やコミュニケーション能力の育成に取り組み生徒の可能性を伸ばします。 ・心身ともにたくましく心豊かな生徒を育成するため、あたりまえのことをあたりまえにできる基本的生活習慣の確立、相手を思いやり、命を大切にする人権感覚の醸成を進めます。
学校運営等	・基礎学力の向上を目指し、授業内容を充実するとともに授業公開や授業研究に取り組み、教職員の資質向上や業務改善に継続的に取り組みます。 ・活力ある学校組織を構築するため、教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、働きやすい職場環境の整備や組織の見直しなどに取り組みます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実による学力の向上	(1) 授業改善や定期的な補習等により学力の向上に取り組みます。 1. 基礎学力の向上・定着を目指した学習指導を検討、計画します。(活動指標：学習指導委員会 7 回/年) 2. 授業時間の確保に努めます。 (活動指標：授業の振替の徹底 自習クラス平均 4 回以下/年) 3. 各部・学年会・各教科と連携して、基礎学力定着のための取り組みを実施します。	(1) 1. 学習指導委員会を5回開き、再来年度のカリキュラム、来年度の選択科目・シラバスなどを検討した。次期学習指導要領を見据えて取り組んで行く必要がある。 2. 職員の年休・出張時の授業振替に努力している。課題自習になる授業は、クラス平均1回未満で昨年度よりかなり減少している。 3. 基礎学力テストを5月に全学年、9月・12 月に1, 2年で実	◎

	(活動指標：基礎学力テスト 2・3 年生は 3 年間で 5 回 1 年生は 3 年間で 7 回 補習 3 回/年)	施。成績下位者には補習を実施した。生徒の取り組み具合は、昨年度までと比べて、かなり上がってきている。	
キャリア教育 の充実による 進路希望の 実現	(1)進路ガイダンスや工場見学、インターンシップなどを活用し生徒の進路希望の実現を目指します。 1. 就職や進学に関わるさまざまな検査を実施し自己理解を深めるとともに、就職試験を意識し経験する機会を持ちます。 (活動指標：Y G P I 検査：1 年次 1 回、クレペリン検査：2 年次 1 回、S P I 対策テスト：3 年次 1 回実施します。) 2. 生徒の自立を促し、社会に出てゆく準備として、職業・大学選択のガイダンス、キャリアアップセミナー、企業展やオープンキャンパスなどに進んで参加するよう啓発し、生徒自身が進路実現に向けた主体的な活動を行うよう促進します。 (2)ものづくりや資格取得などの取り組みを通して、社会に貢献する能力と態度の育成を図ります。 1. 知識・技術の習得に加えて、コミュニケーション能力を養い、思考力・判断力・表現力を身につけます。	(1) 1. 計画通り実施した。特に2 年次に実施したクレペリン検査では、講師派遣を依頼し検査結果を元に担任団の研修会を実施した。 インターンシップ 電気科・電気科が夏季休業中に希望者に実施(12名) 2. 3 年生には1学期に進路ガイダンス2回、3学期にキャリアアップセミナーを実施した。また、1・2 年生には3学期にガイダンスを実施予定。 (2) 1. コミュニケーション能力などの養成は全教育的活動を通じて目指さねばならず、大変難しい課題であるが、機会があるごとに生徒に意識をさせた。	◎
基本的な生活習慣の確立と人権感覚の醸成	(1)「あいさつ」や「身だしなみ」など当たり前のことが当たり前にできるよう取り組みます。 1. 「あいさつ」や「身だしなみ」週間等を設けて学校全体で取り組む雰囲気を作ります。 2. 頭髪服装指導の体制を変えて期日や公平にルールを守る習慣を身につけられるように指導します。	(1) 1. 求人のために企業が学校訪問する時期に合わせて「あいさつ」や「身だしなみ」週間を実施した。 2. 頭髪服装指導の日までに準備をして普段から身だしなみを整えるように指導した。 ・ 遅刻指導の方法を変えて昇降口のチャイムの始まりに遅れた生徒を遅刻扱いとした。それによって SHR までに教室に入室	◎

	(2) 相手を思いやり、命を大切にする心を持った生徒を育成します。 1. 個々の心身がたくましく心豊かな生徒を育てられるよう、日々の生活の中で自分自身を大切に、相手の立場になって考え、思いやりの心が持てるような接し方をしていくとともに、人権LHRや人権講演会などの行事を利用し道徳的な思想を共に考える機会をもてるよう取り組みます。	できるようになった。 (2) ・5月に実施した公開人権LHRでは、各学年、クラスで人権について考え、工夫した学習を積極的に取り組むことによって、相手を思いやる心を育てると共に人権意識を高めることが出来た。 ・11月に人権講演会を実施。講演者の体験や生きていく姿勢を聞き、自分自身や命の大切さについて学ぶことが出来た。	
--	---	--	--

改善課題

基礎学力の向上と専門知識・技術の修得を目指し、授業内容を充実するとともに授業公開や授業研究に取り組み、教職員の資質向上や業務改善に継続的に取り組むことが必要です。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1) 授業見学会の実施や研修への積極的な参加などを通し、指導力の向上を図ります。 1. 授業見学等を実施し、教職員の資質向上を図ります。 (活動指標: 授業見学週間2回/年) (2) 特別支援教育や人権教育等に関する現職教育等を充実させ、全教職員の理解と意識の向上に努めます。 1. 生徒が充実した学校生活が送れるように、心理的支援・合理的配慮を行うための研修を実施します。 (活動指標: 現職教育各分野1回/年)	(1) 1. 6月と11月に授業見学週間を実施し、職員の資質向上に取り組んだ。 (2) 1. ・校内教育相談研修会を夏季休業中に1回開催した。 ・発達障がい支援員による研修(関係教員対象)を2学期に1回開催した。 ・特別な支援が必要な生徒に	◎

		対して県の発達障がい指導員を定期的に要請している。	
情報共有の推進とチームワークの向上	(1) 教職員間の円滑で密な連携が取れるよう、情報共有を推進します。 (活動指標：デスクネッツ・校内掲示板の利用)	(1) 毎朝の全職員による打合せの前後の時間を利用して、各分掌内での情報交換を行っている。また、校内イントラネットの利用が進んでいる。	
情報提供による信頼の構築	(1) ホームページや絆ネットによる情報発信を推進します。 (2) 授業公開や学校見学会等を実施するなど、中学校や関係機関等への情報提供を推進します。 1. 公開授業を行い、保護者、中学校への情報提供を行います。 (活動指標：公開授業 2 回/年、学校説明会・入門講座を開催)	(1) ・ホームページの更新(随時) ・絆ネットによる行事予定等の配信(毎月) (2) 1. 公開授業の開催により保護者への情報提供を行った。また、学校説明会を開催して、中学生とその保護者、中学校教員への情報提供を行った。 (入門講座は台風のため、中止)	
働きやすい職場環境づくり	(1) 教職員満足度の向上に継続して努めます。 (活動指標：教職員満足度調査の実施) (2) 総勤務時間の縮減に向け、勤務体制の改善や年次有給休暇等を取得しやすい環境づくりなどに取り組めます。 1. 各部活動において、週 1 回以上休養日を設定します。 2. 教職員の定時退校日を月 1 回設定します。 3. 各種会議の効率化を図ります。	(1) 満足度調査を実施 「満足している」82. 4% 前年比+0. 2% 「不満である」17. 6% 前年比-0. 7% 満足度が低い項目 「学校のビジョンの共有」 「業務や成果・課題の引継」 「校内組織の在り方・すすめ方」 (2) 1. 各部ごとに設定をしている 2. 本年度は設定しなかった 3. ほとんどが1時間以内で終了することができた	※

改善課題

活力ある学校組織を構築するため、教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、働きやすい職場環境の整備や組織の見直しなどに取り組む必要があります。また、休校日や定時退校日を設定するなど、実効的な総勤務時間の縮減に取り組む必要があります。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・生徒一人ひとりに対して、内面的な部分もしっかり把握して、家庭内やSNS等でのトラブルも未然に防止できるような取り組みが必要。 ・生徒一人ひとりのもつ力を引き出せるように、授業では小グループによる討議を取り入れるなど、修練の場を提供し、コミュニケーション力を向上させることが必要。 ・学校の情報提供には、積極的に新聞等のメディアを活用することも必要。 ・教職員は、会議以外の場合でも活発な意見交換や情報共有が必要。 ・体育系部活動においては、「しっかり休むこと」もトレーニングの一つという意識改革をして活動が超過なものにならないような取り組みが必要。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・担任、部顧問、関係教員の連携を深めて、教育相談・特別支援教育の更なる充実を図って生徒一人ひとりの把握と指導を進めていく。 ・基礎学力の向上・定着に加えて、アクティブラーニングを積極的に取り入れながらコミュニケーション力向上のための取り組みを進めていく。
学校運営についての改善策	・授業見学週間のさらなる充実を図るため時期、期間、方法などについて今後検討していく。 ・本校の教育活動・各科の特色等を更に理解してもらいやすい状態にするための方法や機会を検討し実施していく。 ・生徒の安全・安心に最大限の配慮しつつ、部活動の休日や定時退校日の設定などを通じて、教職員の過重労働の解消を目指す。